

公共施設の再編に関する意見交換会 概 要 報 告

日 時 令和元年6月12日(水)18時30分～20時00分
場 所 横堀交流センター 小会議室
対 象 地 区 雄勝地域(横堀地区、小野地区)

参 加 者 20 人

内 訳	計			20代			30代			40代			50代			60代			70代			80代		
	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女
横堀地区	16	11	5	0			0			1	1		2	2		7	4	3	6	4	2	0		
小野地区	3	2	1	0			0			0			0			2	1	1	1	1		0		
その他	1	1	0	0			0			0			1	1		0			0			0		
計	20	14	6	0	0	0	0	0	0	1	1	0	3	3	0	9	5	4	7	5	2	0	0	0

市出席者 総務部長、企画課長、企画政策班長、担当、協働事業推進課協働のまちづくり班担当

概 要

開 会

あいさつ

総務部長



説 明

- (企画課)
① 公共施設を取り巻く課題
② 湯沢市公共施設再編計画中間案の概要



質疑応答、
意見交換



○ほっと館について、再編計画で令和3年まで施設の在り方を検討することになっている。令和元年から3年間の指定管理契約をしているが、施設の在り方の検討との関係性はどのように考えれば良いのか。

⇒(市)機能については継続する必要があると考えるが、周辺に民間施設もあり、今後、建物だけではなく、配管等の設備も更新の時期が来ることが想定されていることから、施設をすぐにやめるわけではないが、市が保有する必要性を判断するため、施設の在り方を検討することとした。また、雪崩れ危険箇所に含まれており、施設の性質上、不特定多数の方が使う施設であることから、広く市民の意見を伺いながら、令和3年までに在り方を検討したい。

○横堀交流センターの未利用スペースについての有効活用を進め、たくさんの人に利用してもらえるような施設にしてほしい。また、稼働率が13%となっているが、実際の利用者はもっと多い。

⇒(市)現在は、消防法上の問題など、様々な問題があり、3階などに未利用のスペースがある。ただし、立派な建物なので、もっと多くの方に使ってもらうために、未利用スペースをどう有効に使うかということ課題と捉えている。また、稼働率については様々な考え方があり、一般的な計算方法として、貸出可能な部屋について、何人来たか、いつ使ったのかを、使用許可、利用申込書等の紙で確認する方法とした。例えば、観光協会など各団体が入居しており、その部屋を利用する方々はカウントしていない。しかし、実際は、自由に使用できるスペースもあり、玄関を通る方であれば、もっと多くの方がカウントされることになる。計算方法の一つとして、貸出可能な部屋の利用状況から算出した結果であり、決して使用されていないわけではないと認識している。

○稼働率について、例えば、入居団体が他の部屋を使用している場合があるが、今後、申込書等に記入すれば利用率が上がるということか。

⇒(市)基本的には、申込書等から人数をカウント出来れば良いが、再編計画には平成27～28年度の平均値を記載しているため、過去分について遡ることは難しいと思われる。

○ホームページには全ての施設の稼働率と、その計算方法まで掲載されていた。市民にとっては、使われている施設なのか、ほとんど使われない施設なのかは重要な判断材料になる。

⇒(市)稼働率については当然大事な要素ではあるが、他の地域で開催した意見交換会では、稼働率だけで判断すべきでないという意見があった。施設の性質によっても差が出るものであり、一つの目安として参考にすることはあるが、稼働率が低いから直ちにやめるようなことは考えていない。稼働率を始めとする施設データは大事なものであるので、今後もホームページ等で周知できるようにしていきたい。

○市の財政状況や人口減少・高齢化はどんどん進むため、公共施設の再編も積極的に進めてほしい。ただし、再編計画に市民サービスを低下させないと記載されているとおり、その点については配慮いただきたい。

⇒(市)公共施設の管理運営にかかっている費用は年間約17億円であり、約5割が人件費となっている。他の自治体では、民間活力を活用して、職員が自ら管理しない方法で節約している事例もあることから、施設数そのものを減らす方法のほか、管理運営のやり方を変えることについても検討していく。

○雄勝地域の児童クラブをまとめる計画をしているようだが、無謀な気がする。各地区にあるものは、良く考えて検討してもらいたい。

⇒(市)児童クラブの設置場所については、子どもたちの安全性、利便性を考えると、校舎の中にあることが一番良いと考えている。ただし、雄勝地域の旧小学校区にある児童クラブの統合を一気に進めることは、校舎内のスペースからもハードルが高い。将来的な構想と現実問題を、バランスを取りながら考えていくこととなるが、例えば院内地区センターは、歴史的建造物ではあるが、安全性に課題があることから、児童クラブの移転先の検討はスピード感を持ってやっていく必要がある。雄勝地域にある4つの児童クラブを一気に統合することは、すぐには難しいが、最善の方法を模索していく。

○東山森林公園は既に立ち入り禁止になっていたが、再編計画では令和2年で廃止となっている。建物は古く使用できないと思うが、廃止後の公園をどのようにするのか。

⇒(市)東山森林公園は、現在休止中だが、無断で使用した人に何か事故が起こった場合、市が管理責任を問われることになるため、立ち入り禁止にしている。公園内にはコテージ等現存している建物もあるが、他に解体予定の建物も多くあり、財政面から緊急度など優先順位を付けて計画的に解体していく。公園を廃止した後のことについては、未定である。

○横堀交流センターは、避難場所になっているが、特に冬場の一人暮らしが不安なお年寄りから、宿泊できるようになれば良いという声がある。防災時は泊まる必要も出てくるので、宿泊施設としての利用ができれば、有効活用できるのではないかと。高齢化が進む時代であることから、元気な方でも冬の間過ごせるような施設があれば安心できる。新しい施設を建設するのではなく、既存の施設を利用して、これから増える高齢者への対応を考えて欲しい。

⇒(市)市が避難勧告や避難指示等を出した際は、体育館や校舎(横堀交流センター)を使用し、ダンボール等で区切るなど工夫をしながら、避難していただくこととなる。要援護者避難支援プランや、自主防災組織など、隣近所の地域の方々による協力で、お年寄りの方や体の不自由な方の避難を手伝う仕組みもある。また、指定避難所に避難したものの、体の状況から困難であった場合の対応として、収容人数には限りがあるが、特別養護老人ホームなどを福祉避難所として指定している。生活に不安がある高齢者が宿泊できる施設については、高齢者生活支援ハウスみなせシルバートを設置しており、冬期間に限らず利用できる。冬場の高齢者の一人暮らしなど、地域課題の一つだと認識している。課題解決のために必要な機能である場合には、周辺の施設状況を見渡して複合化できないかを検討していくことになる。また、介護予防事業など市では様々な福祉サービスを展開しているので、そういった事業に参加していただけるような仕組みづくりにも努めていきたい。

○管理運営を民間委託した場合、市が直接行ってきたサービス水準を維持できるのか。導入する場合は、民間と直営でどう違いが出るのかしっかり検証してもらいたい。

⇒(市)民間委託や指定管理者制度を導入することで、サービスが低下するようなことがあってはならない。場合によっては、地域の方々との協議も必要と考える。

○廃止や複合化の方向性である施設がいくつかあり、利用率からも廃止しやすい施設が多いと思うが、維持管理費があまりかかっていない施設も多いように見える。現在の方向性で進んだ場合、どれくらいのコスト削減が可能なのか。

⇒(市)再編計画は中間案の段階であり、削減率については、今年度末の成案で示す予定である。平成28年度に策定した公共施設等総合管理計画では、財政的な問題から、目安として延床面積を25年間で45%削減する目標とした。再編計画は前期11年の取組であり、平成31年3月現在で約18%削減できる見込みだが、学校の再編を考慮していない状態での数字である。やみくもに45%削減するために、急ハンドルを切るようなことなく、市民サービスを低下させないという前提のうえで、計画の実行性が確保できるよう目指していきたい。

○計画は、前期と後期に分けているようだが、前期計画と後期計画で方向性が全く変わってしまうこともあるのか。

⇒(市)現在策定中の再編計画(前期)では、概ね2年間で各種課題の検討に取り組み、個別施設ごとに、地域の皆さんや利用者の皆さんと意見交換しながら進めていきたいと考えている。数年後には、方向性のとおり出来たのか、出来なかったのかを検証し、出来なかった場合は方向性の変更が必要な場合もあると思う。

閉 会	20時00分終了
-----	----------